



# シルクロード沿線友好都市サミット 中国が広げる国際交流

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 吉岡 正博 (京都府派遣)

## 中国が目指す新たな国際関係

2018年は、中国の「改革開放」40周年の年にあたります。「改革開放」とは1978年から実施された経済政策で、これを機に中国では市場経済への移行が推進され、この40年の間で目覚ましい経済発展を遂げ、国際社会をけん引する存在にまで成長しました。最近では、2013年に提唱した「一帯一路（シルクロード経済ベルトと21世紀海上シルクロード）」の建設に取り組み、「一帯一路」沿線諸国での巨大輸送ネットワークや文化交流が急速に拡大するなど着実な成果を挙げており、さらには、各国がWin-Winの関係で協調して発展する「新型国際関係」の構築、「人類運命共同体」の構築を推進しています。

これらの動きに呼応して、現在中国の各地方政府も、日本を含む多くの外国の政府機関や企業の関係者を招き、頻りに国際フォーラムなどを開催し、諸外国との経済交流・友好交流関係の構築を進めています。

## サミットを通じて広がる交流

7月20日に青海省西寧市で「2018シルクロード沿線友好都市サミット」が開催され、アジア、ヨーロッパ、中米、アフリカの10か国の政府・地方政府関係者が招待されました。クレア北京事務所も、JETプログラムなどの当協会事業について講演を行うため参加しました。

開催地である青海省西寧市が位置する中国西部地区は、中国からヨーロッパに通じるシルクロードの重要な拠点として古くから栄えてきましたが、近年は「一帯一路」構想を受けて、高速鉄道や高速道路などのインフラ整備や都市開発が急速に進められ、高い経済成長を続けている地域です。

この会議では、各機関の代表者から、交流推進をテーマに発表が行われました。その中で、かつてシルクロードが都市間の友好往来で栄えたように、今後も各国・各



西寧市に、国内外から104名のゲストが集まった。

都市は相互交流を一層強化すること、さらに共通の利益に関わるプロジェクトを積極的に推進し、経済的かつ文化的な理解を深めていくことの重要性が確認されました。また、都市固有のブランドの確立や、国際人材の育成など、都市間の交流・協力を推進するための基盤づくりについて専門家の意見交換が行われました。

中国の地方政府は、このような会議を通じて、アジアやヨーロッパ、アメリカだけでなく、中南米やアフリカなどの国々とも活発に交流し、友好（姉妹）都市提携<sup>注1</sup>や新たな経済協力関係の創出につなげています。

最近の日中関係の改善を受け、中国国内で開催される国際フォーラムなどに日本の地方自治体関係者が招待される場面が増えています。このような国際会議に出席することは、中国の地方政府との交流を深める場となるだけでなく、会議に出席した他国の政府機関や企業の関係者に対して地域の特色をPRし、交流を始める契機ともなるので、積極的に参加してみてもはどうでしょうか。

注1 2018年9月1日現在、中国は、中南米176件、アフリカ139件（日本は中南米79件、アフリカ3件）の友好（姉妹）都市提携を行っている。  
参考：中国国際友好都市連合会ホームページ  
<http://www.cifca.org.cn/web/YouChengTongJi.aspx>  
(一財)自治体国際化協会ホームページ  
<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shimai/page.html>